

盛岡を発掘する

—平成29年度調査速報—



あかやきどき【あかやき土器】

土師器と似ているが、須恵器製作の技法で作られた赤色系の土器。ロクロを使って作られ、盛岡市内では九世紀から出土するようになる。

いごう【遺構】

過去の人間が地面に残した不動産の痕跡。地下に埋没しているものばかりではなく、石垣や寺院などの建物の基礎、古墳の墳丘など地上で観察できるものも含む。

いしがき【石垣】

郭の縁辺部を取り巻く石積みと壁体として、土壘・堀と共に入城する者の動線を規制し、防衛及び視覚上の効果を期待して設置しているもの。石垣は、盛土・切り土によって、旧地形を大規模に造成した郭の表面を覆い、外壁を支える「擁壁」としての機能を付与されている。

いせき【遺跡】

過去の人間活動の痕跡。遺構や遺物・遺物包含層のある場所で、そのどれかが備わっているものを指す。盛岡市内にはおよそ七八〇ヶ所が確認されている。文化財保護法では「埋蔵文化財包蔵地」と呼び、開発の前には発掘調査が義務づけられている。一般的には所在地や宇名をもとに遺跡名をつける。

いづつ【遺物】

過去の人間活動の動産的な所産。土器や石器など、過去の人間が加工・製作した人工遺物と、鉱物や動植物の遺存体など、人間活動の結果もたらされた自然遺物との二つに分けられる。

いづつぼうがんそう【遺物包含層】

土器などの遺物が含まれる土層のこと。雨などで土が流されたときに遺物が一緒に流されて堆積する場合や、不要になった土器などが捨てられて堆積する場合などがある。

えんけいしゆうこう【円形周溝】

円形の古墳の周囲を囲むようにして掘られている溝。直径は五〜一〇メートル程で、円形や馬蹄形などがある。東北北部で多く見られる遺構である。周溝内からは、埋葬された人物へ供えられた須恵器や土師器などが出土することがある。



円形周溝 (下永林遺跡)

おとしあな【陥し穴】

動物を捕獲する目的で作られた、罠用の土坑。北海道・東日本を中心に分布し縄文時代の発見例が多い。陥し穴の開口部は円形や長楕円形で、深さ・形態は多様だが、底に向かってしだいに狭くなる形が一般的である。また、底に逆杭を立てた跡のあるものもある。

かめ【甕】

弥生時代以降の煮炊や貯蔵に用いられた容器の名称。縄文時代の丈の高い広口の器は、深鉢と呼ぶ。

かわら【瓦】

建物の屋根を葺くための土製焼物。通常用いられる瓦は丸瓦と平瓦。軒先に並べる瓦は軒丸瓦と軒平瓦と呼ばれる。軒丸瓦・軒平瓦には瓦当という紋様などがつけられている。

ぐりいし【栗石】

石垣の築石の背後に充填された石のこと。栗石の直径により、大グリ・中グリ・小グリ・割グリなどに区分出来る。大グリは直径は三〇〜四〇cm、小グリは直径は五〜一〇cmであり、用いる場所によって使い分ける。栗石は築石を安定させ、築石が背面から受ける土圧を和らげる機能を持つ。

ぐんしゆうふん【群集墳】

ある一定の地域にまとまった状態で古墳が作られている場所を言う。各古墳に個性はなく、長い間に一つの墓地が自然と形成されたもの、ある一定の期間にいくつもの集落が、一定の地域に墓地を形成したものがあがる。比較的小さい円墳が群在する状態のものが多い。

すえき【須恵器】

窯で千度以上の高温で焼かれた、暗青灰色の陶質の土器。古墳時代に朝鮮半島・伽耶地方の技術者が渡来し生産が始まった。ロクロを利用して成形技法と焼成技法に特徴がある。盛岡市内では八世紀以降に出土するようになる。

そうかくもん【双鶴紋】

南部氏の定紋のひとつで、向い鶴紋ともいう。南部氏は武田菱紋や九曜紋なども用いた。双鶴紋は〇の中に舞鶴が向い合った紋章で、盛岡城の瓦や南部氏の武具、衣装、調度品などによく用いられている。



双鶴紋 (国指定史跡 盛岡城跡)

たてあな【竪穴建物】

地面を掘りくぼめ、上に屋根をかけた半地下式の住居。夏季は涼しく、冬季は暖かい。東北北部では縄文時代早期から古代まで続き、中世に入った後も半地下式の建物を利用していった。縄文時代には床に炉が、古代には壁にカマドが備え付けられていた。



竪穴建物跡 (西鹿渡遺跡)

つき【坏】

古代のもっとも一般的な食器。埴よりも浅く大型で、皿より深いもの。土師器や須恵器・木製品に多く見られる。時期や地域差で、丸底や平底、ふたの有無、高台の有無などの違いがある。

どこう【土坑】

人が意図的に掘った穴のこと。埋葬・貯蔵・ごみ捨て・粘土採掘・掘立柱など、多様な用途が考えられている。

ねいし【根石】

石垣の基礎となる最下段の石材のこと。根石の据え付けには立地や地盤の条件により、掘り込み地業や胴木設置などの技法が用いられることがある。地盤が安定している場合には、根石を据え付けるため「根切り」によって平坦面を作り、その直上に根石を設置する。地盤が軟らかい場合には、胴木を設置した上に根石を据えることもある。

はくへんせつき【剥片石器】

川原石などの母岩の端や、周辺を打ち欠いて薄く剥ぎ取った石片を、石器製品にして使用したもの。手で直接握ったり、木や角の柄を付けたりして使用するものが多い。

はじき【土師器】

弥生土器の流れをくむ、野焼きで約七〇〇〜八〇〇度の温度で焼かれた軟質の土器。素焼きで、赤・褐色系の色調。古墳・平安時代のもを指し、中世以降の同系統の土器は「かわらけ」などと呼び区別することが多い。

やあな【矢穴】

採石にあたって石を割る際に、あらかじめ石目に沿って直線状に複数の穴を開けておき、そこに「矢」と呼ばれる楔を打ち込んで石を割っていた。その矢を打ち込むための穴を矢穴という。

盛岡市内の主な遺跡と時代

時代	年代	西暦	主な出来事	市内の主な遺跡	29年度調査遺跡	
原始	旧石器時代		大陸と地続き、大型の動物が生息する	小石川遺跡(藪川)		
		草創期	12,000年前	土器の使用がはじまる	大新町遺跡(大新町)	
		早期	8,000年前	定住化がすすむ	館坂遺跡(前九年) 庄ヶ畑A遺跡(上米内) 大新町遺跡(大新町) 日戸遺跡(日戸) 新茶屋遺跡(山岸) 上八木田遺跡(新庄) 畑遺跡(上米内)	大谷地遺跡(大二子) 向中野幅遺跡(向中野)
	縄文時代	前期	6,000年前	気候の温暖化、海面の上昇 漁労の発達、各地に大型住居が出現		
		中期	5,000年前	各地に大規模な縄文集落が発達	【県史跡】大館町遺跡(大新町) 柿ノ木平遺跡(浅岸) 繫V遺跡(繫) 上米内遺跡(上米内) 川目C遺跡(川目) 湯沢遺跡(湯沢) 大葛遺跡(浅岸) 落合遺跡(下米内) 蔭内遺跡(繫) 上平遺跡(猪去)	
		後期	4,000年前	気候の寒冷化 ストーンサークルがつくられる		
		晩期	3,000年前	東日本で亀ヶ岡文化が栄える	川目A遺跡(川目) 宇登遺跡(川又)	
	弥生時代	紀元前 2,000年前	水田耕作の開始 金属器の使用が始まる	繫VI遺跡(繫) 一本松遺跡(下米内)		
	古代	古墳時代	57	倭の奴国王が後漢の光武帝より印綬を賜る		
			239	邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを出す ヤマト政権、統一進む	永福寺山遺跡(下米内) 薬師社脇遺跡(浅岸)	台太郎遺跡(向中野)
飛鳥時代		593	聖徳太子が摂政となる	上田蝦夷森古墳群(黒石野)		
		645	大化の改新	竹鼻遺跡(上鹿妻)		
奈良時代		710	平城京に都をうつす	太田蝦夷森古墳群(上太田)		
		724	多賀城が築かれる	百目木遺跡(三本柳) 台太郎遺跡(向中野) 釜崎遺跡(好摩)	西鹿渡遺跡(三本柳) 下永林遺跡(津志田)	
平安時代		774	陸奥国38年戦争始まる(〜812年)	西鹿渡遺跡(三本柳) 永井古墳群(永井)		
		794	平安京に都をうつす	館・松ノ木遺跡(上太田)		
		894	胆沢城(802)志波城(803)徳丹城(812)が築かれる 遣唐使が停止される	【国史跡】志波城跡(下太田) 台太郎遺跡(向中野) 前野遺跡(浅岸) 乙部方八丁遺跡(乙部) 林崎遺跡(下太田) 芋田遺跡(芋田) 稲荷町遺跡(大館町・稲荷町) 内村遺跡(下飯岡)	細谷地遺跡(向中野)	
		1016	藤原道長が摂政となる			
鎌倉時代	1051	前九年の戦い(〜1062年)				
	1083	後三年の戦い(〜1087年)				
	1124	中尊寺金色堂完成				
	1189	奥州藤原氏滅亡				
中世・近世	室町時代	1336	源頼朝が征夷大将軍となる	大宮遺跡(本宮) 堰根遺跡(浅岸)		
		1338	南北朝に分かれ、対立する	台太郎遺跡(向中野)		
	安土桃山時代	1404	足利義満、明との貿易を開始する	落合遺跡(下米内) 里館遺跡(天昌寺町) 安倍館遺跡(安倍館町) 日戸館遺跡(日戸) 下田館遺跡(下田)		
		1467	足利義満、明との貿易を開始する 応仁の乱	【市史跡】玉山館遺跡(玉山) 【国史跡】盛岡城跡(内丸)	【国史跡】盛岡城跡(内丸)	
江戸時代	1588	南部信直が志和郡を攻略する				
	1590	豊臣秀吉が天下を統一する				
	1603	徳川家康が征夷大将軍となる				
近代	明治時代	1641	鎖国の体制が固まる	南部家墓所(北山) 山蔭窯(茶畑)・花古窯(新庄)	岩洞湖E遺跡(藪川) 山蔭焼窯跡(茶畑)	
		1853	アメリカの使節ペリーが浦賀に来る			
		1867	大政奉還 王政復古の号令			

平成30年2月3日(土)〜5月20日(日)

盛岡市 遺跡の学び館

〒020-0866 盛岡市本宮字荒屋13-1
TEL 019-635-6600 FAX 019-635-6605



◆平成29年度調査成果報告会◆

下永林遺跡・西鹿渡遺跡・国指定史跡 盛岡城跡

■日時 平成30年3月4日(日) 13:30〜15:00

■会場 盛岡市遺跡の学び館 研修室(定員80名)

※入場無料、直接会場へどうぞ。

西鹿渡遺跡 (にしかどいせき)

第32次調査 三本柳

西鹿渡遺跡は盛岡市三本柳^{さんぼんやなぎ}地内に所在しており、北上川^{きたかみがわ}・雫石川^{しずくいしかわ}の旧河道によって画された低位段丘^{いたんきゅうじょう}上に立地しています。これまでに、奈良・平安時代の竪穴建物跡40棟以上発見されている古代の集落遺跡です。

今回の調査では、奈良・平安時代の竪穴建物跡^{たてあなたてものあと}が8棟発見されました。竪穴建物跡に伴うカマドは7棟が南向きに対して、1棟のみ北向きです。発見された遺物は奈良・平安時代の土師器^{はじき} (坏・甕^{かめ})、須恵器^{すえき}の甕などがコンテナ6箱分出土しました。出土遺物から竪穴建物跡の年代は、2棟が平安時代で、他の6棟は奈良時代のものであると推定されます。



遺物出土状況

台太郎遺跡 (だいたろういせき)

第90次調査 向中野

台太郎遺跡は盛岡市向中野^{むかいなかの}地内に所在しており、これまでに奈良・平安時代の竪穴建物跡が700棟以上確認されている、盛岡周辺で最大規模の古代の集落遺跡です。

今回の調査では、平安時代の竪穴建物跡が1棟発見されました。竪穴建物跡からは、土師器の坏・甕、あかやき土器の坏・高台付坏、須恵器の坏・大甕・壺のほか、炭化材が多く出土しました。土器の特徴から、10世紀後葉頃のものと考えられ、盛南地区周辺では類例の少ない年代の貴重な調査例となりました。



竪穴建物跡

下永林遺跡 (しもながぼやしせき)

第4次調査 津志田

下永林遺跡は盛岡市三本柳・津志田^{つした}地内に所在しており、低位段丘上に立地しています。昭和10年、この周辺の畑を耕作中に蕨手刀^{わらびてとう}が出土し、昔は数基の蝦夷(エミシ)の塚があったと言われています。

今回の調査では、縄文時代の陥し穴状土坑^{おとあなどこう}1基、古代の円形周溝^{えんけいしゅうこう}9基などが発見されました。また、土師器の球胴甕^{きゅうどうがめ}や高台付坏^{こうだいづきつき}が周溝内から出土しました。この辺りは、地域の有力者達の墓域とされており、古代の人々にとって生活域と区別された、神聖な場所であったと考えられます。調査区外に続く周溝もいくつか発見されており、墓域はさらに広がっていくと考えられます。



円形周溝

細谷地遺跡 (ほそやちいせき)

第37次調査 向中野

細谷地遺跡は盛岡市向中野^{むかいなかの}地内に所在しており、雫石川^{しずくいしかわ}南岸の沖積段丘^{ちゅうせきだんきゅうじょう}上に立地しています。これまでに奈良・平安時代の竪穴建物跡が240棟以上発見されている古代の大規模集落遺跡です。

今回の調査では、縄文時代の陥し穴状土坑^{おとあなどこう}8基、古代以降の溝跡7条、土坑2基などが発見されました。遺跡東部にあたる調査区の東側からは雫石川の旧河道が発見されています。竪穴建物跡は発見されておらず、遺跡の南側へ向かうにつれて、集落の密度が低くなっていると考えられます。また、明治～昭和期のガラス瓶や陶磁器などの遺物が多数出土しました。



陥し穴状土坑

平成29年度 発掘調査 遺跡地図



大谷地遺跡 (おおやちいせき) 第2次調査 玉山

大谷地遺跡は盛岡市玉山^{おおふたご}字大二子^{おほふたご}地内に所在し、南西方向に面した緩斜面上に立地しています。今回の調査は、市道の改良工事に伴う事前調査として行われました。調査の結果、縄文時代の陥し穴状土坑1基、土坑1基、遺物包含層^{いぶつほうかんそう}が発見されました。

遺物包含層からは縄文時代早期末の表裏縄文土器^{れき}や礫石器^{はくへん}、剥片石器などが出土しました。また、遺跡の南側から旧河道の跡が発見され、その堆積土からも縄文時代早期末の土器や縄文時代後期の土器、石器などが出土しています。



旧河道跡

山蔭焼窯跡 (やまかげやきかまあと) 第2次調査 茶畑

山蔭焼窯跡は江戸時代後期に築かれた、盛岡藩内で初めて陶磁器生産が行われた窯業遺跡^{ようぎょう}です。備前(佐賀県)から職人^{びぜん}を招き、伊万里焼^{いまりやき}と遜色ない製品が生産されたと伝えられています。

今回の調査では、室町(戦国)時代と思われる大溝跡1条、江戸時代の素焼窯^{すやきがま}1基が発見されました。素焼窯からは、多量の焼土と素焼きの碗や皿の破片が出土し、焼土層の下には焼けて固くなった床面が発見されました。このことから、素焼窯が存在しているものと考えられます。



山蔭焼 陶磁器

国指定史跡 盛岡城跡

(もりおかじょうあと) 第37次調査 内丸

盛岡城は旧北上川と中津川の合流^{なかつがわ}点の丘陵を利用して築かれた平山城^{ひらやまじろ}です。慶長2年(1597)に南部信直^{なんぶのぶ}・利直^{となお}によって築城が開始されました。今年度は、三ノ丸北西部の石垣修復工事に伴い、内部の栗石^{くりいし}や盛土の状況、根石の深さ等を確認するために調査が行われました。調査の結果、盛岡城2期(元和年間)・4期(宝永年間)の栗石・石垣天端^{てんぼ}石・盛土を確認したほか、新たに4期の根固石^{ねがためいし}が発見されました。また、軒丸瓦(双鶴紋)^{のきまるがわら}、軒平瓦(葛^{のきひらがわら}紋)^{のきひらがわら}、丸瓦・平瓦・寛永通宝などが出土しました。



瓦門北側石垣 栗石検出状況

向中野幅遺跡 (むかいなかのはばいせき)

第2次調査 向中野

向中野幅遺跡は、平安時代の集落跡として周知されていたほか、「道明堤」といわれる江戸時代の水利施設が存在した場所として知られています。「道明堤」の大部分は圃場整備により景観が失われていますが、堤の外周(土盛り部分)は畑地、道路等として残存しています。

今回の調査の結果、道明堤に関する遺構は発見されませんでした。縄文時代早期から前期にかけての土器や石器が出土しました。



調査区全景

岩洞湖E遺跡 (がんだうこEいせき)

第2次調査 藪川

岩洞湖E遺跡は盛岡市藪川^{やぶかわ}地内に所在し、岩洞湖周辺に分布する岩洞湖遺跡群の1つです。縄文時代から平安時代の遺跡として知られています。今回の調査の結果、近世の野田街道^{のたかいどう}に伴う側溝跡が発見されました。野田街道は当時盛岡藩内で最も製塩が盛んであった野田特産の塩や海産物等を盛岡に運んだ重要な輸送路でした。当時の街道は道に沿うように側溝と土盛りがされており、明治時代以降から昭和まで整備・改修が繰り返されていたようです。



野田街道 側溝跡